

「勝つ組織」 を作る！



栃木県看護連盟会長
伊藤 正子

今年も昨年を上回る猛暑続きで、人々の節電意識の向上からマンションのベランダやプランターに植えたゴーヤや朝顔が目立ちました。扇風機やうちわも品切れになるほどの売れ行きであったと聴きました。東日本大震災から一年半が経ちましたが、しかし、復興には未だ問題が山積し、被災者は慣れない仮設住宅でこの暑さと闘っていることを思いますと、普通の生活に早く戻れるように復興政策に拍車をかけて欲しいと願います。

石田まさひろ氏が看護職の代表に選ばれて早、9ヶ月が経ちました。栃木県でもホップ・通常総会後の政策集会・青年部研修会等に来ていただき約1,000名の看護職を前に、候補者としての責任と抱負を語っていただきました。石田氏は「看護職が定着するためにはまず労働環境を良くし、賃金を上げること。不足不足と言っても看護師は集まって来ない。退職した経験豊かな看護職を施設で採用し、適材適所に配置して、高齢患者や認知症患者の慰安や憩いのケアに役立ってもらいたい。…」などなど、幅広い経験と貴重な体験を積み重ねて来られたからこそ、新しい試みやアイデアが次々と生まれるのでしょうか。まさに代表として相応しい方と感動いたしました。いずれの集会も盛況に終ることが出来ました。有難うございました。

「組織活動を充実させ、勝つ組織を作り上げること」目標は7,500票以上

栃木県のこの目標を達成させるためには、私たちそれが自分の持つ力を発揮すれば相当の成績を上げることが必ず出来ると信じています。知恵を絞り、力を合わせて石田さんのトップ当選をめざして一歩一歩 近づけるように頑張りましょう。

日ごろの皆様のご協力とご支援に心から感謝申し上げますと共に、多くの皆様に連盟活動が理解され、さらにご支援頂けますよう、くれぐれも宜しくお願ひ申し上げます。

新任監事紹介

就任挨拶



自治医科大学附属病院
境野 博子

今年度、監事に就任しました。

今まで、施設内における研修会に参加し看護連盟の活動内容については、理解していました。しかし、積極的に連盟活動に参加していたとは言い難く、来年は参議員選挙の年であり、重要な時期にこのような重責を担うことには身の締まる思いです。

私たちの代表を国会に送り出し、看護師が働き続けられる環境を得るために、国民が時代や社会にあった看護を受けるために、看護職全体が政治への関心を持てるように働きかけていくことが重要だと思います。

ベッドサイドにいる私たちの声を政治に反映してもらえるように、石田まさひろ氏を上位当選させるために皆様とともに行動していきたいと思います。今後ともどうぞよろしくご指導をお願いします。